

**MANICURE CHANGING COLOR WITH TEMPERATURE**

**Patent number:** JP63301806  
**Publication date:** 1988-12-08  
**Inventor:** KUROSAWA KUNISAKU  
**Applicant:** MORIMURA BROS INC;; SURIITEC DEIBISU KK  
**Classification:**  
**- international:** A61K7/043  
**- european:**  
**Application number:** JP19870136413 19870530  
**Priority number(s):** JP19870136413 19870530

**Report a data error here**

**Abstract of JP63301806**

**PURPOSE:** To obtain a manicure having a color variable with temperature, by selecting the color with an electron-donative color-developing organic compound, developing the color and defining the color density with a compound having a phenolic hydroxyl group and determining the discoloration temperature with a nonvolatile color-desensitizing compound. **CONSTITUTION:** The objective manicure contains a temperature-sensitive composition composed mainly of (A) an electron-donative color-developing organic compound (especially preferably Crystal Violet lactone, Rhodamine B lactam, etc.), (B) a compound having a phenolic hydroxyl group (especially preferably bisphenol A, precondensate of phenolic polymer, etc.) and (C) a nonvolatile color-desensitizing compound (especially preferably methyl stearate, n-butyl benzoate, etc.) at ratios of preferably (2-50):(2-150):(2-150)(pts.wt.). The color of the manicure varies in various tones by the temperature change with season, time of a day, outside of a room, etc.

---

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

## ⑫ 公開特許公報(A)

昭63-301806

⑤ Int. Cl.

A 61 K 7/043

識別記号

庁内整理番号

7306-4C

⑬ 公開 昭和63年(1988)12月8日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全6頁)

⑭ 発明の名称 感温変色マニキュア

⑯ 特 願 昭62-136413

⑰ 出 願 昭62(1987)5月30日

⑱ 発 明 者 黒 沢 国 策 東京都江戸川区東葛西4丁目5番6号  
 ⑲ 出 願 人 森村商事株式会社 東京都港区虎ノ門1丁目3番1号  
 ⑲ 出 願 人 株式会社 スリーテック・デイビス 東京都江戸川区東葛西4丁目5番6号  
 ⑳ 代 理 人 弁理士 中島 幹雄 外1名

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

感温変色マニキュア

## 2. 特許請求の範囲

主成分が(1)電子供与性呈色性有機化合物、  
 (2)フェノール性水酸基を有する化合物及び  
 (3)不揮発性の呈色減感化合物から成る温度感  
 応性組成物を含有するマニキュア。

## 3. 発明の詳細な説明

## 〔産業上の利用分野〕

本発明は、マニキュア(別名ネイルエナメルと  
 もいう。)に関し、更に詳しくは温度感応性組成  
 物を含有することにより、季節、1日の時間、部  
 屋の内外等による温度変化によって色調が種々変  
 るマニキュアに関するものである。

## 〔従来の技術〕

従来、マニキュアは、無色又は有色を呈してお

り、主に手又は足の爪に被覆して用いられるが、  
 マニキュアの主成分は天然又は合成の樹脂と、こ  
 れらを溶解する溶媒とからなり、その一例を挙げ  
 ると天然樹脂としてはニトロセルロースが、また  
 合成樹脂としてはアルキッド樹脂が用いられ、こ  
 れらは単独で又は併用して用いることができる。

更に溶媒としては酢酸エチル、酢酸ブチル、ト  
 ルエン、イソプロピルアルコール、n-ブチルア  
 ルコール等が用いられ、この他カンファーや着色  
 を目的として色材が加えられてマニキュアとされ  
 る。

樹脂と溶媒との比率は、20~40:80~60、好ま  
 しくは25~35:75~65の範囲である。

無色のマニキュアは被覆後、艶のある無色透明  
 色を呈してはいるが、実質的には色は変わらず、無  
 色のままであり、また着色したマニキュアも同様  
 に着色時の色が保持される。

また、近年色彩感覚の多様化により、マニキュ  
 アの色は、常識を超える色彩感覚の色も現れ、益

々使用者の興味をそそるようになってきた。